

1. プログラム名称
群馬大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム
2. 専攻医定員
1 学年あたり 3 名 (原則 1 学年あたり 2 名とするが、増員を希望する場合はプログラム申請書 A の別紙 5 に理由と共に定員希望数を記載すること。)
3. プログラムの期間
(3) 年間
4. 概要
<p>A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長</p> <p>本研修プログラムは、機関施設 1、連携施設 14 の合計 15 施設の多様な施設群で構成される。施設群は群馬県の 10 の二次保健医療圏のうち、前橋、高崎安中、渋川、吾妻、沼田の 5 医療圏、さらに隣接する埼玉県深谷市に位置している。うち、連携施設の一つである原町赤十字病院の位置する東吾妻町は過疎地域とみなされる地域であり、西吾妻福祉病院の位置する吾妻医療圏、沼田病院や利根中央病院の位置する利根沼田医療圏は医療資源の乏しい地域である。群馬大学医学部附属病院を中心に、群馬県内外の地域医療・在宅医療を担う診療施設と連携し、臓器専門性にとられないプライマリ・ケア医を育成するためのプログラムである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 群馬大学医学部附属病院：病床数 731 床の大学病院、臨床研修施設である。臨床推論の習得の他、救急医療、小児科、内科での研修とその他幅広い診療科での領域別研修が可能である。 ○ 前橋協立病院：病床数 199 床、臨床研修施設。急性期医療からリハビリ、在宅医療に渡る幅広い研修が可能。 ○ 前橋協立診療所：在宅支援診療所として 180 件の在宅患者を抱える。日本在宅医学会認定プログラム・研修施設。 ○ 高崎中央病院：病床数 119 床、急性期医療から高齢者慢性期医療、訪問診療まで幅広い研修が可能である。 ○ 北毛病院：渋川市に位置し、病床数 150 床の小規模病院。高齢者診療、外科との連携を生かした総合診療の研修が可能。 ○ 通町診療所：高崎市に位置し、小児～高齢者まで診療する「家族のかかりつけ医」としての研修が可能。 ○ プラーナクリニック：埼玉県深谷市にあり、在宅診療も行う地域のかかりつけ医である。 ○ 国立病院機構 高崎総合医療センター 高崎・安中医療圏の急性期病院であり、幅広い疾患の急性期総合診療研修が可能。 ○ 博仁会第一病院：病床数 193 床の小規模病院。回復期リハビリテーション病棟を有し、救急診療から在宅に至るまで幅広い研修が可能である。 ○ 群馬中央病院：病床数 333 床の中規模病院、臨床研修施設、健康管理センター、介護老健施設を有し、急性期医療から在宅医療まで幅広い研修が可能である。 ○ 西吾妻福祉病院：病床数 111 床、医療資源の乏しい地域に位置し、僻地診療を担う病院である。多様な年齢層に対し、急性期から慢性期、予防医学、緩和ケアなど幅広い総合診療の研修が可能である。 ○ 独立行政法人国立病院機構沼田病院：病床数 139 床、北毛地域の中核病院で、地域連携を行ないながら幅広い疾患群の研修が可能である。医療資源の乏しい地域に位置し、過疎地域を含む医療圏内での診療を担う。 ○ 利根中央病院：沼田二次医療圏で、地域の救急医療・災害拠点病院・基幹型臨床研修規定病院としての役割を担っている。医療資源の乏しい地域に位置し、過疎地域を含む医療圏内での診療を担う。 ○ 原町赤十字病院：群馬県の過疎地域に指定される吾妻郡に位置する医療圏の病院で、僻地における幅広い研修が可能である。 ○ 日高会日高病院：高崎・安中保健医療圏の地域医療支援病院であり、幅広い疾患の急性期総合診療研修が可能。

B. プログラムの理念、全体的な研修目標

このプログラムは、多様な年齢層に対し、急性期から慢性期・在宅に至るまで、臓器専門性で患者を区別せず、自ら臨床推論を行い、治療方針を決定することの出来る、技量・人徳を備えた総合診療医を育成することを目的としている。

C. 研修期間を通じて行われる勉強会・カンファレンス等の教育機会

(例) 定期的な TV 会議システムによるカンファレンス・経験省察研修録 (ポートフォリオ) 勉強会や作成指導等
 外来診療・在宅診療・病棟医療それぞれの場での症例カンファレンス、ビデオレビュー、経験省察研修録 (ポートフォリオ) 勉強会や作成指導・連携施設合同の症例発表会、学会での症例発表指導など。

D. ローテーションのスケジュールと期間

(4年以上のプログラムの場合は、枠を増やして4年目以降のローテーションについても記載すること)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	群馬大学医学部附属病院											
	領域	内科						救急			小児		
2年目	施設名	連携病院 A											
	領域	内科						総診 II					
3年目	施設名	連携病院 B						連携病院 C					
	領域	総診 II						総診 I					

特記事項 (上記は一例。連携病院は最低3ヶ月の研修でローテーション可能。科や関連病院の診療期間はフレキシビリティあり。必要に応じて、選択研修 (精神科・産婦人科・皮膚科・和漢診療科) の選択が可能。)

総合診療 専門研修	総合診療専門研修 I (6~12) カ月		総合診療専門研修 II (6~12) カ月	
領域別 研修	内科 (12) カ月	小児科 (3) カ月	救急科 (3) カ月	その他 (1~3) カ月

※整備基準にある「平成 30 年度からの3年間に専門研修が開始されるプログラムについては、専門研修施設群の構成

についての例外を日本専門医機構において諸事情を考慮して認めることがある。」との規定を踏まえ、3年間の研修プログラムにおいても、最大6か月間の選択研修が認められます。ただし、その場合でも、各研修科の研修期間の要件を満たすことが必要です。

※「総診Ⅰ」と「総診Ⅱ」を同時に研修することはできません。また、原則として異なる医療機関での研修を実施する必要があります。

※原則として、都道府県の定めるべき地に専門研修基幹施設が所在するプログラム、あるいは研修期間中に2年以上のべき地での研修を必須にしているプログラムにおいて、ブロック制で実施できない合理的な理由がある場合に限り、小児科・救急科の研修をカリキュラム制で実施することが認められます。該当する場合は、特記事項に詳細を記入してください。

5. 準備が必要な研修項目

地域での健康増進活動

①健康診断

実施予定場所 (群馬中央病院)

実施予定の活動 (健康診断の実施)

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

(群馬大学医学部附属病院をローテーション中に週一回、または群馬中央病院ローテーション中)

②住民健康増進活動

実施予定場所 (プラーナクリニック、前橋協立病院、前橋協立診療所、通町診療所、北毛病院、高崎中央病院)

実施予定の活動 (市や村や社会福祉協議会、その他の関連機関と連携し、フレイル予防のための住民リーダーの養成や、健康教室の実施を行う。)

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

(総合診療研修Ⅰのプラーナクリニック、または、前橋協立病院、前橋協立診療所、通町診療所、北毛病院、高崎中央病院の各ローテーション中に適宜)

教育(学生、研修医、専門職に対するもの)

① 実施予定場所 (群馬大学医学部附属病院 総合診療部)

実施予定の活動 (医療面接、身体所見診察、医療推論、治療方針に関する屋根瓦式教育)

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

(プログラム最初の一年間に群馬大学医学部附属病院総合診療部にて随時行う)

② 下記病院は初期研修指定病院であり、群馬大学からの医学生、看護学生の受け入れがある。

実施予定場所 (高崎総合医療センター、または利根中央病院、群馬中央病院)

実施予定の活動 (医療面接、身体所見診察、医療推論、治療方針に関する屋根瓦式教育)

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

(総合診療研修Ⅱの高崎総合医療センター、または利根中央病院、群馬中央病院)

研究	
実施予定場所 (群馬大学医学部附属病院 総合診療部)	
実施予定の活動 (総合診療部内で進行中の臨床研究に研究分担者として参加する。また、可能であれば、自ら研究課題をみつけだし、症例報告や臨床研究を実施する。)	
実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか	
(群馬大学医学部附属病院をローテーション中。その後、必要に応じて随時行う。)	
6. 専攻医の評価方法 (各項目を満たすとき、口を塗りつぶす (■のように)) ※形式的評価と総括的评价を研修修了認定の方法も含めて具体的に記入してください。	
形式的評価	
■研修手帳の記録及び定期的な指導医との振り返りセッションを定期的実施する (頻度: 1ヶ月毎)	
■経験省察研修録 (ポートフォリオ) 作成の支援を通じた指導を行う (頻度: 6ヶ月毎)	
■作成した経験省察研修録 (ポートフォリオ) の発表会を行う (頻度: 6ヶ月毎、参加者の範囲: 専攻医、指導医を含めた医師、看護師、MSW等)	
■実際の業務に基づいた評価 (Workplace-based assessment) を定期的実施する (頻度: 3ヶ月毎)	
■多職種による360度評価を各ローテーション終了時等、適宜実施する	
■年に複数回、他の専攻医との間で相互評価セッションを実施する	
■ローテート研修における生活面も含めた各種サポートや学習の一貫性を担保するために専攻医にメンターを配置し定期的に支援するメンタリングシステムを構築する	
■メンタリングセッションは数ヶ月に一度程度を保証する	
総括的评价	
■総合診療専門研修 I・II の研修終了時には、研修手帳に専攻医が記載した経験目標に対する自己評価の確認と到達度に対する評価を総合診療専門研修指導医が実施する。	
■内科ローテート研修において、症例登録・評価のため、内科領域で運用する専攻医登録評価システム (Web 版研修手帳) による登録と評価を行う。研修終了時には病歴要約評価を含め、技術・技能評価、専攻医の全体評価結果を内科指導医が確認し、総合診療プログラムの統括責任者に報告する。	
■3ヶ月の小児科の研修終了時には、小児科の研修内容に関連した評価を小児科の指導医が実施する	
■3ヶ月の救急科の研修終了時には、救急科の研修内容に関連した評価を救急科の指導医が実施する	
■以下の基準でプログラム統括責任者はプログラム全体の修了評価を実施する	
(1) 研修期間を満了し、かつ認定された研修施設で総合診療専門研修 I および II 各 6ヶ月以上・合計 18ヶ月以上、内科研修 12ヶ月以上、小児科研修 3ヶ月以上、救急科研修 3ヶ月以上を行っており、それぞれの指導医から修了に足る評価が得られている	
(2) 専攻医自身による自己評価と省察の記録、作成した経験省察研修録 (ポートフォリオ) を通じて、到達目標がカリキュラムに定められた基準に到達している	
(3) 研修手帳に記録された経験目標が全てカリキュラムに定められた基準に到達している	
なお、研修期間中複数回実施される、医師・看護師・事務員等の多職種による 360度評価 (コミュニケーション、チームワーク、公益に資する職業規範) の結果も重視する	
研修修了認定の方法 (総括的评价結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー)	
修了判定会議のメンバー	
■研修プログラム管理委員会と同一	
□その他 ()	
修了判定会議の時期 (専攻医終了の 1ヶ月前)	()
7. プログラムの質の向上・維持の方法	
研修プログラム管理委員会	
委員会の開催場所 (群馬大学医学部附属病院 総合診療部)	()
委員会の開催時期 (年 3回 (概ね 5月、9月、12月頃))	()
専攻医からの個々の指導医に対する評価	
評価の時期 (各ローテーション終了時)	()
評価の頻度 (各ローテーション終了時)	()
評価結果の利用法 (研修向上の目的で利用するため、指導医間で利用・共有する。公表しない。)	()

研修プログラムに対する評価

評価の時期（	各ローテーション終了時	）
評価の頻度（	各ローテーション終了時	）
評価結果の利用法（	研修向上の目的で利用するため、指導医間で利用・共有する。公表しない。	）

8. 専門研修施設群

基幹施設の施設要件（各項目を満たすとき、を塗りつぶす（のように））

総合診療専門研修Ⅰの施設基準を満たしている。

総合診療専門研修Ⅱの施設基準を満たしている。

大学病院で研修全体の統括組織としての役割を果たしている、あるいは適切な病院群を形成している施設である。

研修施設群全体の要件。

総合診療専門研修Ⅰとして、のべ外来患者数 400 名以上／月、のべ訪問診療件数 20 件以上／月である。

総合診療専門研修Ⅱとして、のべ外来患者数 200 名／月以上、入院患者総数 20 名以上／月である。

小児科研修として、のべ外来患者数 400 名以上／月である。

救急科研修として、救急による搬送等の件数が 1000 件以上／年である。

地域医療・地域連携への対応

へき地・離島、被災地、医療資源の乏しい地域での研修が 1 年以上である。

具体的に記載：

施設名（原町赤十字病院） 市町村名（中之条町） 研修科目（総合診療専門研修Ⅱ） 研修期間（3～12 か月）

施設名（西吾妻福祉病院） 市町村名（長野原町） 研修科目（総合診療専門研修Ⅱ） 研修期間（3～12 か月）

施設名（独立行政法人国立病院機構沼田病院） 市町村名（沼田市） 研修科目（総合診療専門研修Ⅱ） 研修期間（3～12 か月）

施設名（利根中央病院） 市町村名（沼田市） 研修科目（総合診療専門研修Ⅱ） 研修期間（3～12 か月）

基幹施設がへき地※に所在している。

へき地※での研修期間が 2 年以上である。

具体的に記載：

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ） か月）

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ） か月）

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ） か月）

※過疎地域自立推進特別措置法に定める過疎地域。詳細は総務省ホームページ参照

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm

http://www.soumu.go.jp/main_content/000456268.pdf

9. 基幹施設

研修施設名	群馬大学医学部附属病院 総合診療部		
所在地	住所 〒371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-22 電話 027-220-8666 FAX 027-220-8666 E-mail kowasek@gunma-u.ac.jp		
プログラム統括責任者氏名	小和瀬 桂子	指導医登録番号	
プログラム統括責任者 部署・役職	群馬大学大学院医学系研究科 総合医療学 准教授		
事務担当者氏名	白山 麻衣子		
連絡担当者連絡先	住所 〒371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-22 電話 027-220-8666 FAX 027-220-8666 E-mail m.sirayama@gunma-u.ac.jp		
基幹施設のカテゴリー	<input type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅰの施設 <input type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅱの施設 <input checked="" type="checkbox"/> 大学病院		

基幹施設の所在地	二次医療圏名（ 前橋保健医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>施設要件（各項目を満たすとき、<input type="checkbox"/>を塗りつぶす（<input checked="" type="checkbox"/>のように））</p> <ul style="list-style-type: none"> ■総合診療以外の 18 基本診療領域の基幹施設機能を、本プログラム統括責任者が所属する診療科あるいは部門では担当していない（プログラム基幹施設の役割を診療科・部門が兼任していない） ■本プログラム以外の総合診療専門研修プログラムを本基幹施設は運営していない ■プログラム統括責任者が常勤で勤務し、コーディネーターとしての役目を十分果たせるように時間的・経済的な配慮が十分なされている ■専門研修施設群内での研修情報等の共有が円滑に行われる環境（例えば TV 会議システム等）が整備されている ■プログラム運営を支援する事務の体制が整備されている ■研修に必要な図書や雑誌、インターネット環境が整備されている <ul style="list-style-type: none"> ※研修用の図書冊数（ 100 冊以上 ） ※研修用の雑誌冊数（群馬大学総合メディアセンターからインターネットで常時文献検索を行なうことができる。） ※専攻医が利用できる文献検索や二次資料の名称（ Pubmed、医中誌 等） ※インターネット環境 <ul style="list-style-type: none"> ■LAN 接続のある端末 ■ワイヤレス ■自施設で臨床研究を実施したり、大学等の研究機関と連携した研究ネットワークに加わったりするなど研究活動が活発に行われている <p>具体例（順天堂大学主導の不明熱の原因疾患・診断方法に関する多施設前向き試験 (FUO study) などの臨床試験に参加した他、総合診療に関する医学教育の教育効果、漢方医学教育の教育効果など臨床研究を行っている。)</p>	

10. 連携施設	
連携施設名	前橋協立病院
所在地	住所 〒371-0811 群馬県前橋市朝倉町 828-1 電話 027-265-3511 FAX 027-265-3629 E-mail ikyoku-jimu@kyouritsu.org
連携施設担当者氏名	瀧口 由希
連携施設担当者 部署・役職	内科・科長
事務担当者氏名	一之瀬 竜也
連絡担当者連絡先	住所 〒371-0811 群馬県前橋市朝倉町 828-1 電話 027-265-3511 FAX 027-265-3629 E-mail ikyoku-jimu@kyouritsu.org
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 前橋保健医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

連携施設名	前橋協立診療所
所在地	住所 〒371-0016 前橋市城東町 3 丁目 15-28 電話 027-231-6060 FAX 027-231-5379 E-mail mae-kyo@kyouritsu.org
連携施設担当者氏名	高柳 亮
連携施設担当者 部署・役職	所長
事務担当者氏名	小林 日出夫
連絡担当者連絡先	住所 〒371-0016 前橋市城東町 3 丁目 15-28 電話 027-231-6060 FAX 027-231-5379

別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

	E-mail m-kensyu@kyouritsu.org
連携施設の所在地	二次医療圏名 (前橋保健医療圏) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →□はい ■いいえ

連携施設名	高崎中央病院
所在地	住所 〒370-0043 群馬県高崎市高関町 498-1 電話 027-323-2665 FAX 027-327-3860 E-mail ikyoku-jimu@harunacoop.com
連携施設担当者氏名	松尾 良子
連携施設担当者 部署・役職	医局 内科
事務担当者氏名	田村 奈月
連絡担当者連絡先	住所 〒370-0043 群馬県高崎市高関町 498-1 電話 027-323-2665 FAX 027-327-3860 E-mail ikyoku-jimu@harunacoop.com
連携施設の所在地	二次医療圏名 (高崎安中保健医療圏) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →□はい ■いいえ

連携施設名	北毛保健生活協同組合 北毛病院
所在地	住所 〒377-0005 群馬県渋川市有馬 237-1 電話 0279-24-1234 FAX0279-24-3834 E-mail ikyoku@hokumou.coop
連携施設担当者氏名	飯島 研史
連携施設担当者 部署・役職	内科 科長
事務担当者氏名	關口 哲也
連絡担当者連絡先	住所 〒377-0005 群馬県渋川市有馬 237-1 電話 0279-24-1234 FAX 0279-24-3834 E-mail ikyoku@hokumou.coop
連携施設の所在地	二次医療圏名 (渋川二次医療圏) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である →□はい ■いいえ

連携施設名	通町診療所
所在地	住所 〒 370-0053 群馬県高崎市通町 143-2 電話 027-322-6534 FAX 027-324-7934 E-mail toorimati@harunacoop.com
連携施設担当者氏名	平 洋
連携施設担当者 部署・役職	所長
事務担当者氏名	大嶋 真由美
連絡担当者連絡先	〒 370-0053 群馬県高崎市通町 143-2 電話 027-322-6534 FAX 027-324-7934 E-mail toorimati@harunacoop.com
連携施設の所在地	二次医療圏名 (高崎安中保健医療圏) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である

	→□はい ■いいえ
--	-----------

連携施設名	プラーナクリニック
所在地	住所 〒366-0817 電話 048-551-1500 FAX 048-551-1501 E-mail aokiyasu@gunma-u.ac.jp
連携施設担当者氏名	青木 康弘
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	雲井 和成
連絡担当者連絡先	住所 〒366-0817 電話 048-551-1500 FAX 048-551-1501 E-mail prana.kumoi@gmail.com
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 埼玉県北部医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →□はい ■いいえ

連携施設名	独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター
所在地	住所 〒370-0829 群馬県高崎市高松町36番地 電話 027-322-5901 FAX 027-327-1826 E-mail sato.masamichi.kc@mail.hosp.go.jp
連携施設担当者氏名	佐藤 正通
連携施設担当者 部署・役職	総合診療科・内科系診療部長
事務担当者氏名	佐久間 敬大
連絡担当者連絡先	住所 〒370-0829 群馬県高崎市高松町36番地 電話 027-322-5901 FAX 027-327-1826 E-mail sakua.keita.bp@mail.hosp.go.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 高崎安中保健医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →□はい ■いいえ

連携施設名	博仁会 第一病院
所在地	住所 〒370-0074 群馬県高崎市下小島町1277 電話 027-362-1811 FAX 027-362-1897 E-mail tamura.daiichi@gmail.com
連携施設担当者氏名	田村 耕成
連携施設担当者 部署・役職	副院長
事務担当者氏名	長谷川 輝男
連絡担当者連絡先	住所 〒370-0074 群馬県高崎市下小島町1277 電話 027-362-1838 FAX 027-362-1814 E-mail hasegawa@daiichi-hp.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（高崎・安中医療圏） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →□はい ■いいえ

連携施設名	独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院
-------	-------------------------

別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

所在地	住所 〒371-0025 前橋市紅雲町1-7-13 電話 027(221)8165 E-mail : akuzawa_nobuhiro@yahoo.co.jp
連携施設担当者氏名	阿久澤 暢洋
連携施設担当者 部署・役職	内科・内科医長
事務担当者氏名	平方 康夫
連絡担当者連絡先	住所 〒371-0025 前橋市紅雲町1-7-13 電話 027(221)8165 E-mail main@gunma.jcho.go.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (前橋保健医療圏) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

連携施設名	公益社団法人地域医療振興協会 西吾妻福祉病院
所在地	住所 〒377-1308 群馬県吾妻郡長野原町大津 746-4 電話 0279-83-7111 FAX 0279-83-8032 E-mail info@nawh.jp
連携施設担当者氏名	三ツ木 禎尚
連携施設担当者 部署・役職	管理者兼病院長
事務担当者氏名	土屋 智恵美
連絡担当者連絡先	住所 〒377-1308 群馬県吾妻郡長野原町大津 746-4 電話 0279-83-7111 FAX 0279-83-8032 E-mail kuroiwac@jadecom.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (吾妻保健医療圏) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

連携施設名	独立行政法人国立病院機構沼田病院
所在地	住所 〒378-0051 沼田市上原町 1551-4 電話 (0278) 23-2181 FAX (0278) 24-1819 E-mail takei.yoshikazu.kt@mail.hosp.go.jp
連携施設担当者氏名	武井 義和
連携施設担当者 部署・役職	診療部 内科医長
担当者氏名	海田 武彦
連絡担当者連絡先	住所 〒378-0051 電話 (0278) 23-2181 FAX (0278) 24-1819 E-mail kaita.takehiko.mz@mail.hosp.go.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (沼田保健医療圏) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

連携施設名	利根中央病院
所在地	住所 〒378-0012 群馬県沼田市沼須町 910-1 電話 0278-22-4321 FAX 0278-22-4393

別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

	E-mail suzusato1980@gmail.com
連携施設担当者氏名	鈴木 諭
連携施設担当者 部署・役職	総合診療科 部長
事務担当者氏名	須藤 香菜子
連絡担当者連絡先	住所 〒378-0012 電話 0278-22-4321 FAX 0278-22-4393 E-mail kanako.suto@tonehoken.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 沼田保健医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

連携施設名	原町赤十字病院
所在地	住所 〒377-0882 群馬県吾妻郡東吾妻町大字原町 698 電話 0279-68-2711 FAX 0279-68-2758 E-mail kenkan@haramachi.jrc.or.jp
連携施設担当者氏名	竹澤 二郎
連携施設担当者 部署・役職	内科 ・ 院長
事務担当者氏名	大須賀 結香
連絡担当者連絡先	住所 〒377-0882 群馬県吾妻郡東吾妻町大字原町 698 電話 0279-68-2711 FAX 0279-68-2758 E-mail kenkan@haramachi.jrc.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 吾妻保健医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

連携施設名	医療法人社団日高会 日高病院
所在地	住所 〒370-0001 群馬県高崎市中尾町 886 電話 (027)362-6201 FAX (027)362-8901 E-mail senmoni_kensyu@hidaka-kai.com
連携施設担当者氏名	石山 延吉
連携施設担当者 部署・役職	総合診療内科
事務担当者氏名	茂木 信介
連絡担当者連絡先	住所 〒370-0001 群馬県高崎市中尾町 886 電話 (027)362-6201 FAX (027)362-8901 E-mail senmoni_kensyu@hidaka-kai.com
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 高崎・安中医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

※連携施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー＆ペーストして列挙すること

総合診療専門研修 I

総合診療専門研修 I の施設一覧

都道府県 コード	医療機関 コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
10	0110151	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	前橋協立病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
10	0110169	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	前橋協立診療所	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
10	1010087	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	高崎中央病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
10	1110077	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	北毛保健生活協同組合 北毛病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
10	1010301	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	通町診療所	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
11	4601928	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	プラーナクリニック	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携

総合診療専門研修 I を行う施設ごとの詳細

研修施設名	前橋協立病院		
診療科名	(内科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (189) 床 診療科病床数 (60) 床		
総合診療専門研修 I における 研修期間	(3 ~ 6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有 無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	瀧口 由希	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) <input type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input checked="" type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完す			

<p>る</p> <p><input type="checkbox"/>学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか ()</p> <p><input type="checkbox"/>学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 ()</p> <p>学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()</p>
<p>■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（地域やかかりつけの患者等、24時間患者の受け入れ対応を行っている。）</p>
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（外来・訪問診療の患者とも主治医制をとり、定期受診は予約を入れることで継続的に関わり、訪問患者では主治医意見書や多職種とのやり取りは担当する医師が主体となるなど、継続的に関わる体制をとっている。）</p>
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（多様な年齢層に対して、急性期・慢性期の外来診療と予防医学的アプローチ、訪問診療を含めた緩和ケアを提供できる診療体制をとっている。）</p>
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（第三次医療機関との紹介・逆紹介はスムーズに行われ、必要時には電話での相談を行える関係性がある。また、同一法人内の介護事業所をはじめ、地域の介護・福祉機関との連携、情報交換や相談を積極的に行っている。）</p>
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（様々な年齢層が受診しており、地域住民が家族単位で利用することも多い。）</p>
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（地域住民を対象とした健康づくり（保健予防活動）にも積極的に取り組んでいる。）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（訪問診療3単位/週。訪問看護と連携し、患者急変時は随時対応を行っている。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、<input type="checkbox"/>を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 400名以上/月 <input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()</p>
<p>■のべ訪問診療数 20件以上/月 <input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 (毎月定例の外部講師による画像カンファレンス、指導医によるカルテチェックは随時行っている) 他の施設で行う教育・研修機会 (連携施設病院とテレビ会議システムをつなぎ、救急カンファレンス等を行っている)</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 (3) プログラム名 (群馬家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム 前橋協立コース) プログラム名 (群馬家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム 利根中央コース) プログラム名 (国立病院機構高崎総合医療センター総合診療専門医プログラム)</p>

研修施設名	前橋協立診療所
診療科名	(内科、胃腸科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	■診療所 <input type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床

総合診療専門研修 I における 研修期間	(3～6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有 無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	高柳 亮	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2	井上 有沙	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) <input type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input checked="" type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか (週1単位前橋協立病院小児科の外来にて研修) <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (在宅療養支援診療所である)			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 (予約外来や同じコースの訪問診療単位を担当していただく)			
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 (急患、慢性疾患患者、健診患者、在宅終末期患者を担当していただく)			
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 (退院前カンファレンスやケアカンファレンスへの参加していただく)			
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況 (家族カンファレンスへの参加、訪問診療先の家族の診察を担当していただく)			
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法 (地域住民との懇談会などへ参加していただく)			
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度 (訪問診療月 200 件、往診月 27 件、在宅看取り年 24 件)			
診療実績 (各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
<input checked="" type="checkbox"/> のべ外来患者数 400 名以上/月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()			

<p>■のべ訪問診療数 20件以上/月 <input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ 緩和ケア勉強会、臨床倫理カンファレンス、研修振り返り ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ 症例検討会など ）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ 5 ） プログラム名（群馬家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム 前橋協立コース） プログラム名（群馬家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム 利根中央コース） プログラム名（国立病院機構高崎総合医療センター総合診療専門医プログラム） プログラム名（老年病研究所附属病院総合診療専門医プログラム） プログラム名（JCHO 群馬中央病院総合診療専門医プログラム）</p>

研修施設名	高崎中央病院		
診療科名	（ 一般内科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（119）床 診療科病床数（ 0 ）床		
総合診療専門研修Iにおける研修期間	（3～18）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制（		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （		
常勤指導医氏名1	松尾 良子	指導医登録番号	（第2020-0084号）
常勤指導医氏名2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
<p>研修の内容 <input checked="" type="checkbox"/>外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/>訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/>地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>			
<p>施設要件 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/>研修診療科において患者の10%以上が後期高齢者である 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） <input type="checkbox"/>研修診療科において患者の5%以上が学童期以下である <input checked="" type="checkbox"/>学童期以下の患者は5%未満だが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/>学童期以下の患者は5%未満だが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか （ </p>			

<input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は5%未満であり、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療実績 () 学童期以下の患者の診療を増やすための工夫 ()	
■アクセスの担保 ：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（救急外来にて24時間対応をとっている。）	
■継続的なケア ：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（外来患者・訪問診療の患者とも緩やかな主治医性をとり、定期受診は予約を入れることで継続的に関わり、訪問患者では主治医意見書や他職種とのやりとりは担当する医師が主体となって継続的に関わる体制を取っている。）	
■包括的なケア ：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（多様な年齢層に対して、急性期・慢性期の外来診療と、予防医学的アプローチ、緩和ケアを含めた訪問診療など提供できる体制を取っている。）	
■多様なサービスとの連携 ：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（第三次医療機関との紹介・逆紹介はスムーズに行われ、必要時には電話での相談を行える関係性がある。また同一法人内の介護事業所をはじめ、地域の介護・福祉機関との連携、情報交換や相談を積極的に行っている。）	
■家族志向型ケア ：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（様々な年齢層が受診し、地域住民が家族単位で利用することも多い。）	
■地域志向型ケア ：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（地域住民を対象とした健康づくり（保健予防活動）にも積極的に取り組んでいる。）	
■在宅医療 ：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（訪問診療2単位/週。訪問看護と連携をし、患者急変時は随時対応を行っている。）	
診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ ■ のように））	
■のべ外来患者数 2,700名以上/月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()	
■のべ訪問診療数 420件以上/月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （外来・入院・在宅症例のカルテチェック、複数上級医とのカンファレンス、振り返りの機会） 他の施設で行う教育・研修機会 （群馬家庭医療学センター所属の専攻医・指導医参加のTV会議システムを利用した振り返りの機会）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 (3) プログラム名 (群馬家庭医療学センター総合診療プログラム 利根中央コース) プログラム名 (群馬家庭医療学センター総合診療プログラム 前橋協立コース) プログラム名 (国立病院機構高崎総合医療センター総合診療専門医プログラム)	

研修施設名	北毛保健生活協同組合 北毛病院
診療科名	(一般内科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (150) 床 診療科病床数 (75) 床

総合診療専門研修 I における 研修期間	(3～6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有 無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	吉野 和博	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2	飯島 研史	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3	橋本 真也	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 4	福江 靖	指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) <input type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input checked="" type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (救急外来にて 24 時間対応を行っている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 (外来患者・訪問診療の患者とも緩やかな主治医制をとり、定期受診は予約を入れることで継続的に関わり、訪問患者では主治医意見書や多職種とのやり取りは担当する医師が主体となって継続的に関わる体制をとっている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 (多様な年齢層に対して、急性期・慢性期の外来診療と予防医学的アプローチ、緩和ケアを含めた訪問診療など提供できる診療体制をとっている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 (第三次医療機関との紹介・逆紹介はスムーズに行われ、必要時には電話での相談を行える関係性がある。また、同一法人内の介護事業所をはじめ、地域の介護・福祉機関との連携、情報交換や相談を積極的に行っている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況 (地域に根ざした病院で有り地域住民が家族単位で利用することも多い。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法 (地域住民を対象とした健康づくり (保健予防活動) にも積極的に取り組んでいる。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度 (訪問診療 0.5 日/週。訪問看護と連携をし、患者急変時は随時対応を行っている。)			

診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））	
<input checked="" type="checkbox"/> のべ外来患者数 400名以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
<input checked="" type="checkbox"/> のべ訪問診療数 20件以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （毎週月曜日に抄読会、毎週土曜日にCT読影会、週1回以上カンファレンスを行っている。症例発表などを通じた教育を行っている。） 他の施設で行う教育・研修機会 （月1回の振り返り（第1土曜日））	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 (2) プログラム名（群馬家庭医療学センター 総合診療専門研修プログラム 前橋協立コース） プログラム名（群馬家庭医療学センター 総合診療専門研修プログラム 利根中央コース）	

研修施設名	通町診療所		
診療科名	（ 総合診療 I ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床		
総合診療専門研修 I における研修期間	（3～6）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1	平 洋	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
研修の内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件			
後期高齢者診療			
<input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている			
学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ）			

<p>■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/>学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/>学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () <input type="checkbox"/>学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()</p>	
<p>■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（在宅患者は 24 時間電話で宅直医に相談でき、必要があれば臨時往診できる体制をとっている。基幹病院との連携で夜間必要時は救急外来受診で対応が可能。）</p>	
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（外来診療・訪問診療において小児から高齢者まで日常遭遇する急性期・慢性期の医療、複数の健康問題を持つ患者の診療を経験する。予防接種や乳幼児健診、特定健診などを通じて予防・健康増進に関わる。訪問診療を中心に癌・非癌患者の緩和ケアを担当する）</p>	
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（外来診療・訪問診療において小児から高齢者まで日常遭遇する急性期・慢性期の医療、複数の健康問題を持つ患者の診療を経験する。予防接種や乳幼児健診、特定健診などを通じて予防・健康増進に関わる。訪問診療を中心に癌・非癌患者の緩和ケアを担当する。）</p>	
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（第 2 次・3 次医療機関との紹介・逆紹介はスムーズに行われ、必要時には電話での相談を行える関係性がある。また、同一建物内の居宅介護支援事業所、地域包括支援センターをはじめ、地域の介護・福祉機関との連携、情報交換や相談を積極的に行っている。）</p>	
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（内科・小児科を標榜しており家庭医である所長を中心に乳幼児から高齢者まで診療している。そのため、地域住民が家族単位で利用することも多い。）</p>	
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（地域住民を対象とした健康づくり（保健予防活動）にも積極的に取り組んでいる。）</p>	
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（訪問診療は週 3～4 単位実施。同一法人の病院との連携強化型在宅支援診療所として、契約患者の 24 時間対応を行っている。）</p>	
<p>診療実績（各項目を満たすとき、<input checked="" type="checkbox"/>を塗りつぶす（■のように））</p>	
<p>■のべ外来患者数 400 名以上／月 <input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()</p>	
<p>■のべ訪問診療数 20 件以上／月 <input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()</p>	
<p>研修中に定期的に行う教育</p>	
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （外来・在宅症例のカルテチェック、振り返りの機会） 他の施設で行う教育・研修機会 （群馬家庭医療学センター所属の、専攻医・指導医参加の TV 会議システムを利用した振り返りの機会）</p>	
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>	
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 (3) プログラム名（群馬家庭医療学センター総合診療プログラム前橋協立コース） プログラム名（群馬家庭医療学センター総合診療プログラム利根中央コース） プログラム名（高崎総合医療センター総合診療専門研修プログラム）</p>	

研修施設名	医療法人康曜会 プラーナクリニック
診療科名	(総合診療内科)

	※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(3 ~ 6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	青木 康弘	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2	原 史郎	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3	奥野 茂	指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) <input type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input checked="" type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか (深谷市・大里郡医師会所属の小児科診療所が 1km 程度の場所にあるため学童診療は同診療所と連携し学童の診療経験を補完する。週に半日程度を目安に予防接種などの診療を経験する) <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (365 日 24 時間体制で、医師・看護師に連絡できる携帯を常備し適切な指示や相談が出来るようにしている。また在宅患者や地域包括ケア患者は電話連絡の他に、必要に応じて臨時往診などの対応を行っている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 (診療を主治医制とし一定数の外来患者および在宅患者を受け持つ。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 (急性期は予約外診療および緊急往診、慢性期は再診、予防接種外来を受け持つ、院内市民向け健康増進レクチャーを担当する、在宅看取りに関して緩和ケアチームに参加する)			
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 (院内に配置されている、社会福祉士、ソーシャルワーカーと連携する。院外のケアマネージャー、訪問看護ステーション、訪問薬局、介護施設と連携し在宅医療を行っており、在宅医療を通じて多様なサービスや介護・福祉を経験する。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況 (同一家族が同一主治医に受診できるようにプログラムされており、ご家族を含めて家族指向型のケアが行える体制としている。また当院の総合案内では、患者のご家族の介護申請や在宅医療、在宅リハビリテーションなどの相談ができるようになっており、そういった患者にアドバイスを行うことが出来る。)			

<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（地域向け健康講座を行う。外来患者向け健康季刊誌を作成している。）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（現在約80名の在宅患者に365日24時間体制で対応している。訪問診療は月80名、緊急往診は月10名、在宅看取りは月1～2程度である。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 400名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()</p>
<p>■のべ訪問診療数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 (入院カンファレンス；週1回、画像カンファレンス；週1回、外来カンファレンス；週1回、呼吸ケアチームカンファレンス；月1回、緩和ケアチームカンファレンス；月1回、栄養サポートチームカンファレンス；月1回、褥瘡ケアチームカンファレンス；月1回、在宅チームカンファレンス；月1回、睡眠ケアチームカンファレンス；月1回) 他の施設で行う教育・研修機会 (埼玉県北呼吸ケア講習会、埼玉県北部喘息・COPD研究会、北部医療圏在宅呼吸ケア研究会)</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 (0) プログラム名 () プログラム名 () プログラム名 ()</p>

総合診療専門研修Ⅱ

総合診療専門研修Ⅱの施設一覧

都道府県コード	医療機関コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・連携施設の別
10		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	群馬大学医学部附属病院	■基幹 <input type="checkbox"/> 連携
	7010024	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	国立病院機構高崎総合医療センター	<input type="checkbox"/> 基幹 ■連携
10	1010145	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	博人会第一病院	<input type="checkbox"/> 基幹 ■連携
10	0110037	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院	<input type="checkbox"/> 基幹 ■連携
10	2110324	■へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	公益社団法人地域医療振興協会 西 吾妻福祉病院	<input type="checkbox"/> 基幹 ■連携
10	7010040	■へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	国立病院機構 沼田病院	<input type="checkbox"/> 基幹 ■連携
10	0310363	■へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	利根保健生活協同組合 利根中央病院	<input type="checkbox"/> 基幹 ■連携
10	2110076	■へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	原町赤十字病院	<input type="checkbox"/> 基幹 ■連携
10	1010244	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	医療法人社団日高会日高病院	<input type="checkbox"/> 基幹 ■連携

総合診療専門研修Ⅱを行う施設ごとの詳細

研修施設名	群馬大学医学部附属病院
診療科名	(救命・総合医療センター (総合診療部門)) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。

施設情報	病院病床数（731）床 診療科病床数（25）床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（3～12）カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の 分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名1	小和瀬 桂子	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名2	佐藤 浩子	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名3	堀口 昇男	指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
研修の内容			
■病棟診療：臓器別ではない病棟で、主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題を抱える患者の包括ケア、専門医との連携などを経験する。 ■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケア、心理・社会・倫理的複雑事例への対応を経験する。			
施設要件			
■一般病床を有する ■救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（地域の医療機関、介護施設等からの救急要請及び紹介受診に対応する）			
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（チーム医療による多職種カンファレンスの開催。プロブレムリスト作成により活動性疾病の抽出を行い対応する）			
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（初診外来を行い、必要に応じ、各専門科医師との連携を遂行。可能な限り主治医機能を維持）			
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（初診外来において、傾聴による患者訴えの理解に勤め、精神科外来コンサルトを含め、対応を検討していく。生物心理社会モデルなどの手法を用いて患者理解と対応を検討する。）			
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（緩和研修を実践し、投薬も含めた技能、また医師としてのあり方、態度、臨床倫理を学ぶ。）			
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（入院患者を対象とした多職種カンファレンスに参加。患者支援センターと連携し退院支援を行う。）			
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（地域からの要請に対応し応需。）			
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること			
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する）			
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（総合診療外来において初診患者を対応する）			
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（カリキュラムに示されるコモンディージーズ対応履修を勧める）			

<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（ポートフォリオ作成、学会発表・症例報告作成を行う。）</p>
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（生物心理社会モデルを用いた対応を学ぶ。患者支援センターとの協働により、積極的に取り組む体制を構築する。）</p>
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（定期的外来、病棟カンファレンスにより、臨床推論能力を養う）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■当該診療科における入院患者総数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （病棟カンファレンス週1回、外来カンファレンス週1回、症例検討会については病棟カンファレンスにて行う） 他の施設で行う教育・研修機会 （日本内科学会地方会、日本病院総合診療医学会総会、日本プライマリ・ケア連合会への参加）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数（ 5 ） プログラム名（高崎総合医療センター総合診療専門医プログラム ） プログラム名（群馬家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム前橋協立コース） プログラム名（群馬家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム利根中央コース ） プログラム名（日高病院総合診療専門研修プログラム） プログラム名（老年病研究所附属病院総合診療研修プログラム）</p>

研修施設名	独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター		
診療科名	（総合診療科・内科） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数（ 485 ）床 診療科病床数（ 240 ）床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（3～12）カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名1	佐藤 正通	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
<p>■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。</p> <p>■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを</p>			

経験する	
施設要件	
<ul style="list-style-type: none"> ■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ■救急医療を提供している 	
病棟診療 ：以下の全てを行っていること	
<ul style="list-style-type: none"> ■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（地域の医療機関、介護施設等からの救急養成及び紹介受診に対応する） ■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（チーム医療による多職種カンファレンスの開催。プロブレムリスト作成により活動性疾病の抽出を行い対応する） ■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（初診外来を行い、必要に応じ、各診療科医師との連携を遂行。可能な限り主治医機能を維持） ■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（初診外来において、傾聴による患者訴えの理解に勤め、精神科外来コンサルトを含め、対応を検討していく） ■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（緩和研修を実践し、投薬も含めた技能、また医師としてのあり方、態度を学習する） ■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（地域医療支援連携センターとの共同カンファレンスの提供。入院患者を対象とした毎朝行われる多職種カンファレンスに参加） ■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（地域からの要請に対応し応需） 	
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること	
<ul style="list-style-type: none"> ■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する） ■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（総合診療外来において初診患者に対応する） ■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（カリキュラムに示されるコモンディージーズ対応履修を勧める） ■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（ポートフォリオ作成、学会発表を促し、これを行う） ■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（地域医療支援・連携センター職員との協働により、積極的に取り組む体制を構築） ■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（定期的外来、病棟カンファレンスにより、臨床推論能力を養う） 	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
<ul style="list-style-type: none"> ■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ） ■当該診療科における入院患者総数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ） 	
研修中に定期的に行う教育	
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （病棟カンファレンス週2回、外来カンファレンス週一回、症例検討会については病棟カンファレンスにて行う）</p> <p>他の施設で行う教育・研修機会 （日本内科学会地方会、日本病院総合診療医学会総会、日本プライマリ・ケア連合会への参加）</p>	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること	
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ 3 ）</p> <p>プログラム名（高崎総合医療センター総合診療専門医プログラム）</p> <p>プログラム名（群馬家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム前橋協立コース）</p> <p>プログラム名（群馬家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム利根中央コース）</p>	

研修施設名	博仁会 第一病院
-------	----------

診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (193) 床 診療科病床数 (103) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(3~12) カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	田村 耕成	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題 (心理・社会・倫理的問題を含む) を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件			
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する <input checked="" type="checkbox"/> 救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者 (特に虚弱) ケア 具体的な体制と方略 (地域の診療所や高齢者施設と連携して虚弱高齢者の入院を数多く受け入れている)			
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (複数の健康問題を抱える高齢者の入院が多く、複数のプロブレムリストを整理した上で診断・治療方針決定を行っており、複雑事例に対する対応を経験できる。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (院内の専門診療科や大学病院など院外の専門診療科とも連携をとって診療を行っている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (心理・社会・倫理的問題に関してソーシャルワーカーや看護師等コメディカルとも連携し対応している。心理的ケアに関しては必要に応じて院外の精神神経科にもコンサルトを行う。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (中核病院からの癌・非癌患者の緩和ケア目的の入院の受け入れを積極的に行っている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 (退院後の支援を多職種で検討し、リハビリテーション・在宅復帰、地域医療・訪問看護などへの連携を個々の症例に応じて行っている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅患者の入院時対応 具体的な体制 (当院診療中の患者や地域の在宅診療を行う診療所からの入院を受け入れている。)			
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること			
<input checked="" type="checkbox"/> 救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略 (夜間は救急外来にて一次、二次救急の受け入れを積極的に行っている。昼間は当番制で救急患者の診療にあたっている。初診患者の診療を総合診療科で対応している。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略 (臓器別に分かれていないため、総合診療科で幅広い疾患群の症例を経験できる。)			
<input checked="" type="checkbox"/> よくある症候と疾患 具体的な体制と方略 (地域の一次・二次医療を担っており、common disease を数多く経験できる。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 臨床推論・EBM 具体的な体制と方略 (外来患者のカンファレンス、指導医との discussion において、臨床推論やEBMを重視した症			

例検討が行われている。)
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（複数の健康問題のある症例に対して、院内外の専門診療科やコメディカルと連携し包括的なケアを行っている。）</p>
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（不明熱など地域の診療所で診断・治療の困難な症例を積極的に受け入れている。）</p>
診療実績（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■当該診療科における入院患者総数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
研修中に定期的に行う教育
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （週1回カンファレンスを行っている。また、研修医のレベルに応じた勉強会を適宜行う予定） 他の施設で行う教育・研修機会 （大学病院等で行う教育・研修にも参加する予定）</p>
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ 1 ） プログラム名（高崎総合医療センター総合診療専門医プログラム） プログラム名（ ） プログラム名（ ）</p>

研修施設名	独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院		
診療科名	（内科） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数（ 333 ）床 診療科病床数（ 75 ）床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（3～12）カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし ■あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名1	阿久澤 暢洋	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
<p>■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。</p> <p>■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する</p>			

施設要件
<ul style="list-style-type: none"> ■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ■救急医療を提供している
病棟診療 ：以下の全てを行っていること
<ul style="list-style-type: none"> ■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（地域の診療所や高齢者施設と連携して虚弱高齢者の入院を数多く受け入れている） ■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（複数の健康問題を抱える高齢者の入院が多く、複数のプロブレムリストを整理した上で診断・治療方針決定を行っており、複雑事例に対する対応を経験できる。） ■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（初診外来を行い、必要に応じ、各診療科医師との連携を遂行。可能な限り主治医機能を維持） ■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（心理・社会・倫理的問題に関してソーシャルワーカーや看護師等コメディカルとも連携し対応している。心理的ケアに関しては必要に応じて院外の精神神経科にもコンサルトを行なう。） ■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（中核病院からの癌・非癌患者の緩和ケア目的の入院の受け入れを積極的に行なっている。） ■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（退院後の支援を多職種で検討し、リハビリテーション・在宅復帰、地域医療・訪問看護などへの連携を個々の症例に応じて行なっている。） ■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（当院診療中の患者や地域の在宅診療を行なう診療所からの入院を受け入れている。）
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること
<ul style="list-style-type: none"> ■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（夜間は救急外来にて一次、二次救急の受け入れを積極的に行なっている。昼間は当番制で救急患者の診療にあたっている。初診患者の診療を総合診療科で対応している。） ■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（臓器別に分かれていないため、総合診療科で幅広い疾患群の症例を経験できる。） ■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（地域の一次・二次医療を担っており、common disease を数多く経験できる。） ■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（外来患者のカンファレンス、指導医とのdiscussionにおいて、臨床推論やEBMを重視した症例検討が行われている。） ■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（複数の健康問題のある症例に対して、院内外の専門診療科やコメディカルと連携し包括的なケアを行なっている。） ■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（不明熱など地域の診療所で診断・治療の困難な症例を積極的に受け入れている。）
診療実績 （各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））
<ul style="list-style-type: none"> ■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ） ■当該診療科における入院患者総数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）
研修中に定期的に行う教育
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （1.内科カンファレンス、抄読会（週一回）、がんボード（週一回）、病診連携カンファレンス（月に一回）、他、感染・MRM、災害医療などの講演会、ワークショップを定期的実施している。 2.カルテチェック 指導医による毎日、及び、退院時の総合的チェックを行っている。）</p> <p>他の施設で行う教育・研修機会 （学会・研究会への参加に加え、症例報告などの学会発表を積極的に行う。）</p>
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ 1 ）</p> <p>プログラム名 （ JCHO 群馬中央病院総合診療専門研修プログラム ）</p> <p>プログラム名 （ ）</p> <p>プログラム名 （ ）</p>

研修施設名	公益社団法人地域医療振興協会 西吾妻福祉病院		
診療科名	(総合診療) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (74) 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(3~12) カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名1	三ツ木 禎尚	指導医登録番号	
常勤指導医氏名2	塩谷 恵一	指導医登録番号	
常勤指導医氏名3	倉澤 美和	指導医登録番号	
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件			
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する <input checked="" type="checkbox"/> 救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者(特に虚弱)ケア 具体的な体制と方略(高齢者率の多い地域の僻地診療を担っているため、地域の診療所とも連携し高齢者の入院を数多く受け入れている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略(複数の健康問題を抱える患者に対し、主治医として積極的に関わることが出来る。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略(必要に応じて院外の専門診療科にコンサルトを行なう。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略(心理・社会・倫理的問題に関して、複雑な症例にはソーシャルワーカーや看護師等コメディカルとも連携し個別に対応している。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略(緩和ケアに関する相談・学習の機会を設けながら、主治医として主体的に経験できる体制をとっている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略(医療療養型病床での慢性疾患患者の管理を行なえるようになる。退院後の支援を多職種で検討し、介護保険や福祉分野との連携を行ないながら退院支援を行なうことが出来る。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅患者の入院時対応 具体的な体制(地域の在宅診療を行なう診療所からの入院を受け入れている。)			
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること			
<input checked="" type="checkbox"/> 救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略(二次救急までの様々な医療技術や知識をマスターすることが出来る。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略(総合外来において臓器別でない症例の初期診療を経験することで、問診・診察・診断・振り分けが実践できるようになる。)			
<input checked="" type="checkbox"/> よくある症候と疾患 具体的な体制と方略(僻地の二次医療までを担う病院であり、幅広い年齢層の頻度の高い症候・疾患を数多く経験で			

きる。)
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（ケースカンファ週1回。指導医とのdiscussionにおいて、臨床推論やEBMを重視した症例検討が行われている。Up to dateを常時検索できる体制。）</p>
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（高齢者の全人的な診療。複数の健康問題のある症例に対して、院内外の専門診療科やコメディカルと連携し包括的なケアを行なっている。）</p>
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（診断困難症例に関して、気軽に専門医や同僚に相談できるような体制をとっている。診断がつかない場合は三次医療機関へ紹介している。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■当該診療科における入院患者総数 20件以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ケースカンファ週1回、研修医のカルテは、原則指導医がチェックしている。） 他の施設で行う教育・研修機会 （六合診療所での出張診療研修、四万へき地診療所・長野原町へき地診療所への出張研修、往診同行等）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ 6 ） プログラム名（ JADEC総合診療プログラム「地域医療のススメ」なら ） プログラム名（ JADEC総合診療プログラム「地域医療のススメ」台東 ） プログラム名（ JADEC総合診療プログラム「地域医療のススメ」東京北 ） プログラム名（ 自治医科大学地域医療後期研修プログラム総合診療専門研修コース ） プログラム名（ 小諸厚生病院「浅間山麓・総合診療専門医育成プログラム」 ） プログラム名（ 日本医科大学武蔵小杉病院「総合診療研修プログラム」 ）</p>

研修施設名	独立行政法人国立病院機構沼田病院		
診療科名	（ 内科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数（ 165 ）床 診療科病床数（ 100 ）床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（3～12）カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるへき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名1	武井義和	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	（ ）

要件（各項目の全てを満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））
研修の内容 ■棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ■来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する
施設要件 ■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ■救急医療を提供している
病棟診療 ：以下の全てを行っていること ■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（当科入院患者の8割以上は高齢者であり、要介護の虚弱高齢者の主治医となる機会が多い。）
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（高齢、独居、要介護、担癌、認知など複数の問題を抱える患者の主治医として対応する。）
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（消化器や循環器、呼吸器疾患は院内の専門医、脳血管疾患は近隣の医療機関と連携して診療にあたる。）
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（複雑な事例に関しては週1回程度行われる退院調整看護師や地域医療連携室とのミーティングで検討する。）
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（隔週で行われる緩和ケアチームの回診に参加して緩和ケアの実態を経験する。）
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（担当患者に関する近隣の介護施設と地域医療連携室との打ち合わせに参加し、適宜退院後の施設訪問にも同行する。）
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（近隣の介護施設や在宅患者の発熱、呼吸困難、腹痛、転倒などの状態変化に対して24時間体制で入院対応できる体制が整備されている。）
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること ■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（救急外来は24時間365日、内科の初診は平日の午前中に受け付けている。）
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（特殊外来以外は臓器別ではない診療を行っている。）
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（高齢者は様々な疾患を抱えているため、一つの科にとらわれることなく総合的に診断・治療を行う。）
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（訴えや経過から疾患を推定し、鑑別診断のために検査を行う。）
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（院内の専門各科や近隣医療機関と連携して包括的なケアを提供している。）
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（診断困難例についてはカンファレンスを行い、皆で検討する。）
診療実績（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））
■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上/月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）
■当該診療科における入院患者総数 20件以上/月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）
研修中に定期的に行う教育 当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （利根沼田医師会の先生方も参加していただきクリニカルカンファレンスを年4回行っている。剖検症例については年2回CPCを予定している。） 他の施設で行う教育・研修機会 （医療従事者研修会 ）
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること

本プログラム以外の参加プログラム数 (0)
プログラム名 ()
プログラム名 ()
プログラム名 ()

研修施設名	利根中央病院		
診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (253) 床 診療科病床数 (90) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(3~12) カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	鈴木 諭	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2	大塚 隆幸	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3	比嘉 研	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 4	中村 大輔	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 5	宇敷 萌	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 6		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題 (心理・社会・倫理的問題を含む) を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件			
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する <input checked="" type="checkbox"/> 救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者 (特に虚弱) ケア 具体的な体制と方略 (入院・外来ともに高齢者の割合は大きく、また、療養病床、通所リハビリ、通所介護を有するなど、介護を要する虚弱高齢者も多数フォローしている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (複数の健康問題を抱える患者に対して、主治医として積極的に関わることができる。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (院内は各科の垣根が低く、コンサルトしやすい環境である。また地域には総合病院も複数あり、積極的に連携を行っている。常勤医が不在の科でも、外来で非常勤医師へのコンサルトが可能である。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (複雑な事例については、院内はもちろん、プログラムとしても定期的に振り返り・検討の機会を設けている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (緩和ケアに関する相談・学習の機会を設けながら、主体的に経験できる体制をとっている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 (同一法人内にも訪問看護ステーション、在宅介護支援センターを有するなど、地域の医療・			

介護施設との連携を積極的に行っている。）	
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（自院の在宅患者のみならず、関連診療所でフォローしている在宅患者の憎悪時にも積極的に受け入れを行っている。）	
外来診療：以下の診療全てを行っていること ■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（救急外来・初診外来は担当制により終日設けられており、定期的に経験することができる。沼田二次医療圏の輪番病院に指定されている。）	
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（一般内科は臓器別に分かれておらず、様々な症例を経験することができる。）	
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（地域の一次・二次医療を担う病院であり、頻度の高い症候や疾患も多数経験できる。診療情報提供書がなくても受診可能な病院であり、初診患者の診療を行うことで鑑別の段階から学ぶことができる。）	
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（外来患者に関して、臨床推論やEBMの観点からも適宜カンファレンスを行い、検討している。）	
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（複数の健康問題のある患者に対して、院内外の専門各科やコメディカルとも連携・協力をしながら、包括的なケアを提供している。特に医療相談員が複数名おり、bioのみならず、psycho、socialの対応が可能である。）	
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（地域の一次・二次医療機関として、不明熱などの診断が困難な患者の精査を行う機会も多い。診断がつかず専門的な検査を要する場合は、三次医療機関へ紹介している。）	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
■当該診療科における入院患者総数 20件以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ 週1回のクリニカルジャズ、群馬家庭医療学センターの月に二回の振り返り、コアレクチャー、年に1回のセミナーを開催する。） 他の施設で行う教育・研修機会 （ 連携病院との勉強会・医師会などの研修会に積極的に参加する。 ）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 （ 6 ） プログラム名（群馬家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム 前橋協立コース） プログラム名（群馬家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム 利根中央コース） プログラム名（栃木医療センター総合診療専門研修プログラム） プログラム名（協立総合病院総合診療専門研修プログラム） プログラム名（名瀬徳洲会病院総合診療専門研修プログラム） プログラム名（CFMD 家庭医療/総合診療レジデンス・東京）	

研修施設名	原町赤十字病院
診療科名	（ 内科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	病院病床数（199）床 診療科病床数（92）床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（3～12）カ月
常勤指導医の有無	□なし ■あり 常勤指導医なしの場合

	<p>■ 都道府県の実定するべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制 （ 2018年2月4日 総合診療科特任指導医講習会受講済み ）</p>		
研修期間の分割	<p>■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）</p>		
常勤指導医氏名1	竹澤 二郎	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<p>研修の内容 ■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する</p>			
<p>施設要件 ■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ■救急医療を提供している</p>			
<p>病棟診療：以下の全てを行っていること ■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（ 多くの高齢者が受診し、他職種とのチームによる、栄養サポートや認知症ケア、感染対策を行っている。 ）</p>			
<p>■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（ 他職種とのチームによる、栄養サポートや認知症ケア、感染対策を行っている。 ）</p>			
<p>■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（ 専門外来（非常勤医師）へのコンサルテーションをシームレスに行っている。 ）</p>			
<p>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（ 精神科医師やMSWが随時対応を行っている。 ）</p>			
<p>■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（ 緩和医療暫定指導医が入院・外来患者に緩和医療、在宅患者には訪問緩和医療を提供。住民へのリビングウィル活動も行っている。 ）</p>			
<p>■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（ 医療相談室（MSW）、訪問看護ステーション（看護師）が患者に寄り添った退院調整を行い訪問診療、訪問看護を提供している。地域住民の健康維持のため、住民（巡回）健診、住民がん検診等を行っている。 ）</p>			
<p>■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（ 当院の訪問看護を利用している在宅患者は、訪問看護ステーションを通して早急に受入、一般の在宅患者の場合は、救急外来を通して受入れている。 ）</p>			
<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること ■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（ 時間内では、内科・外科医師による救急外来を行っている。時間外は当直医師による夜間受入体制を整えている。 ）</p>			
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（ 一般内科は臓器別に分かれておらず、様々な症例を経験することができる。 ）</p>			
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（ 地域の一次・二次医療を担う病院であり、頻度の高い症候や疾患も多数経験できる。診療情報提供書がなくても受診可能な病院であり、初診患者の診療を行うことで鑑別の段階から学ぶことができる。 ）</p>			
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（ 外来患者のカンファレンス、指導医とのディスカッションにおいて、臨床推論やEBMを重視した症例検討会を行う 各ガイドラインに沿って、治療方針を決定する。 ）</p>			
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（ 担当医師、担当看護師、MSW、訪問看護師、栄養サポートチーム、認知症ケアチームと連携し包括的なケアを行う。 ）</p>			
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（ 総合内科専門医、内科指導医および非常勤医師による院内専門外来にコンサルテーションし、必要があれば三次医療機関へ紹介している。 ）</p>			

診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 （ ）</p>	
<p>■当該診療科における入院患者総数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 （ ）</p>	
研修中に定期的に行う教育	
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ 週1回のカンファレンス、月2回外科と合同カンファレンス、OPC、レジデントレベルに応じた勉強会、WEB講演会を行う。） 他の施設で行う教育・研修機会 （ 学会・研究会・大学病院等での研修会参加への支援 ）</p>	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること	
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ 3 ） プログラム名（ 日高病院総合診療専門研修プログラム ） プログラム名（ 群馬中央病院総合診療専門研修プログラム ） プログラム名（ さいたま赤十字病院総合診療専門研修プログラム ）</p>	

研修施設名	日高病院		
診療科名	（ 総合診療内科、救急科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数（ 287 ）床	診療科病床数（ 30 ）床	
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 18 ）カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし ■あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	<input type="checkbox"/> なし ■あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名1	石山 延吉	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名2	大高 行博	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名3	武藤 重明	指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
<p>■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する</p>			
施設要件			
<p>■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ■救急医療を提供している</p>			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
■高齢者（特に虚弱）ケア			

具体的な体制と方略（主疾患治療以外にリハビリテーション科、NST チーム等と連携し ADL、栄養状態の改善を図る）
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（複数診療科間の合同カンファレンスや認定看護師の関わりを診療システムに取り入れている）
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（内科系、外科系専門医での診療連携の他、2回/週でモーニングカンファレンスを実施）
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（精神科（リエゾン）、MSW、担当医師等で問題を共有し対応している。）
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（医師は公的な緩和ケア研修会への参加を推進、担当医として緩和ケア診療を実践している。また、緩和ケアチームによる病棟ラウンド、緩和ケア外来を設置し専門的診療を行っている）
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（専従の看護師およびMSWが退院調整を行っており、地域医療支援病院であることから、紹介、逆紹介等を通し、十分な病病連携、病診連携機能を提供している）
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（かかりつけ患者、地域診療所からの依頼について24時間の診療体制で受け入れを行っている）
外来診療：以下の診療全てを行っていること
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（総合診療内科として初診外来を設置している。救急外来については救急科と共働し、内科系疾患については総合診療内科が主に対応）
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（臓器別ではない診療として総合診療内科が初診・再来の外来を行っている）
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（熱発、急性腹症、意識障害等の症候について救急または総合診療内科がトリアージし、その後、専門診療科が引き受ける）
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（チーム医療、カンファレンス、院内他科あるいは専門医療機関からコンサルトを通して臨床推論、EBMを確立する）
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（看護師、薬剤師、管理栄養士、MSW等の専門職、あるいは地域の医療・介護施設等との連携により包括的ケアを提供する体制があり、これを実践している。）
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（カンファレンス、キャンサボード、内科系外科系合同のモーニングカンファレンスでの事例紹介、専門診療科へのコンサルトを通して診断に努める体制があり、利用されている）
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））
■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）
■当該診療科における入院患者総数 20件以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）
研修中に定期的に行う教育
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （基幹病院として合同カンファレンス、GPC、医療安全研修会、臨床倫理研修会等を実施。指導医は常にカルテチェックを行いカルテ記載方法、診断、治療経過を評価し、必要に応じ評価する） 他の施設で行う教育・研修機会 （連携施設では研修所屬診療科での勉強会、カンファレンスに参加、指導医はカルテチェックを実施）
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数（ なし ）
プログラム名（ ）
プログラム名（ ）
プログラム名（ ）

領域別研修：内科

別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

研修施設名	群馬大学医学部附属病院	都道府県コード 10	医療機関コード 7010016
領域別研修（内科）における研修期間	（6～12）カ月		
指導医氏名	廣村 桂樹		
有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの	日本内科学会認定総合内科専門医		
要件（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
研修の内容 ■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
施設要件 ■内科専門研修プログラムに参加している ■基幹施設 <input type="checkbox"/> 連携施設 <input type="checkbox"/> 特別連携施設 ■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
■当該診療科における入院患者総数 40件以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 （ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			

領域別研修：内科			
研修施設名	高崎総合医療センター	都道府県コード 10	医療機関コード 7010024
領域別研修（内科）における研修期間	（6）カ月		
指導医氏名	佐藤 正通		
有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの	日本内科学会認定総合内科専門医		
要件（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
研修の内容 ■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
施設要件 ■内科専門研修プログラムに参加している ■基幹施設 <input type="checkbox"/> 連携施設 <input type="checkbox"/> 特別連携施設 ■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
■当該診療科における入院患者総数 40件以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 （ 3 ）			
プログラム名（高崎総合医療センター内科専門医研修プログラム）			
プログラム名（群馬大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム）			
プログラム名（群馬家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム前橋協立コース）			

領域別研修：内科			
研修施設名	JCHO 群馬中央病院	都道府県コード 10	医療機関コード 0110037

領域別研修（内科）における研修期間	（6）カ月		
指導医氏名	阿久澤 暢洋		
有する認定医・専門医資格 <small>※内科に関するもの</small>	日本内科学会認定総合内科専門医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
施設要件			
■内科専門研修プログラムに参加している □基幹施設 ■連携施設 □特別連携施設			
■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科における入院患者総数 40件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 （ 1 ）			
プログラム名（JCHO 群馬中央病院総合診療専門研修プログラム ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			

領域別研修：内科			
研修施設名	利根中央病院	都道府県コード 10	医療機関コード 0310363
領域別研修（内科）における研修期間	（6）カ月		
指導医氏名	鈴木 諭		
有する認定医・専門医資格 <small>※内科に関するもの</small>	日本内科学会認定総合内科専門医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
施設要件			
■内科専門研修プログラムに参加している □基幹施設 ■連携施設 □特別連携施設			
■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科における入院患者総数 40件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 （ 3 ）			
プログラム名（高崎総合医療センター内科専門医研修プログラム）			
プログラム名（群馬大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム）			
プログラム名（群馬家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム前橋協立コース）			

領域別研修：内科			
研修施設名	原町赤十字病院	都道府県コード 10	医療機関コード 2110076
領域別研修（内科）における研修期間	（6）カ月		

指導医氏名	竹澤 二郎
有する認定医・専門医資格 <small>※内科に関するもの</small>	日本内科学会認定総合内科専門医,
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
研修の内容 ■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する	
施設要件 ■内科専門研修プログラムに参加している □基幹施設 ■連携施設 □特別連携施設 ■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
■当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（)	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 (0) プログラム名 () プログラム名 () プログラム名 ()	

領域別研修：小児科			
研修施設名	群馬大学医学部附属病院	都道府県コード 10	医療機関コード 7010016
領域別研修（小児科）における研修期間	(3～) カ月		
指導医氏名	滝沢 琢己	有する専門医資格 (小児科専門医) <small>※小児科に関するもの</small>	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する ■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する ■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ			
施設要件 ■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる ■小児科常勤医がいる。(20) 名			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（)			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 (0) プログラム名 () プログラム名 () プログラム名 ()			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

※小児科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件（2ページ「4 概要 D. ローテーションのスケジュールと期間」参照）を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。（A4で1枚程度、書式自由）文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

領域別研修：小児科

別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

研修施設名	JCHO 群馬中央病院	都道府県コード 10	医療機関コード 0110037
領域別研修（小児科）における研修期間	（ 3～ ）カ月		
指導医氏名	河野 美幸	有する専門医資格（ 小児科専門医 ） ※小児科に関するもの	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■外来診療：指導医の下で初診を経験し、小児特有の日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ			
施設要件			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■小児科常勤医がいる。（ 7 ）名			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 400 名以上／月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 （ 0 ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

※小児科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件（2ページ「4 概要 D. ローテーションのスケジュールと期間」参照）を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。（A4で1枚程度、書式自由）文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

領域別研修：救急科			
研修施設名	群馬大学医学部附属病院	都道府県コード 10	医療機関コード 7010016
指導医氏名	大嶋 清宏	有する専門医資格（日本救急医学会専門医）	専従する部署（ 救急科 ）
■研修期間 （ 3～ ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000 件以上／年			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 （ 2 ）			
プログラム名（ 群馬家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム利根中央コース ）			
プログラム名（ 群馬家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム前橋協立コース ）			
プログラム名（ ）			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

※救急科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件（2ページ「4 概要 D. ローテーションのスケジュールと期間」参照）を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。（A4

別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

で1枚程度、書式自由) 文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

その他の領域別診療科

領域別研修：精神神経科			
研修施設名	群馬大学医学部附属病院	都道府県コード 10	医療機関コード 7010016
指導医氏名	福田 正人	有する専門医資格（精神保健指定医、精神科専門医）	専従する部署（精神神経科）
■研修期間（1～3）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（精神神経科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（精神神経）科常勤医がいる。（9）名			

※ その他の診療科が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域別研修：産婦人科			
研修施設名	群馬大学医学部附属病院	都道府県コード 10	医療機関コード 7010016
指導医氏名	岩瀬 明	有する専門医資格（日本産婦人科学会認定医、日本生殖学会生殖医療専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科（産婦人科）専門医）、日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医）	専従する部署（産婦人科）
■研修期間（1～3）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（産婦人科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（産婦人科）科常勤医がいる。（12）名			

領域別研修：皮膚科			
研修施設名	群馬大学医学部附属病院	都道府県コード 10	医療機関コード 7010016
指導医氏名	茂木 精一郎	有する専門医資格（日本皮膚科学会専門医）	専従する部署（皮膚科）
■研修期間（1）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（皮膚科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（皮膚科）科常勤医がいる。（8）名			

領域別研修：和漢診療科			
研修施設名	群馬大学医学部附属病院	都道府県コード 10	医療機関コード 7010016

別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

指導医氏名	佐藤 浩子	有する専門医資格（日本東洋医学会認定漢方専門医）	専従する部署（総合診療部）
■研修期間 （ 1 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（和漢診療）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（和漢診療）科常勤医がいる。（ 1 ）名			

その他の研修施設（例：臨床疫学などの社会医学の研修や保健・介護・福祉関連の施設等での研修）

領域・分野： 臨床疫学			
研修施設名	群馬大学医学部附属病院		
指導にあたる医師名	小和瀬桂子	有する資格（日本プライマリ・ケア学会認定医・指導医）	専従する部署（総合診療部）
■研修期間 （12）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している			
■ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性：群馬大学医学部附属病院での研修期間や、総合診療専門研修 II の研修期間に臨床研究の基礎を習得する。）			
指導体制			
■ 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる			
■ 研修終了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる			

領域・分野： 保健・介護・福祉			
研修施設名	群馬中央病院		
指導にあたる医師名	阿久澤暢洋	有する資格（日本プライマリ・ケア学会認定医・指導医）	専従する部署（総合診療部）
■研修期間 （ 6～12 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している			
■ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性：群馬大学医学部附属病院での研修期間や、群馬中央病院（総合診療専門研修 II）の研修期間に健康診断を実施する。）			
指導体制			
■ 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる			
■ 研修終了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる			

領域・分野： 保健・介護・福祉	
研修施設名	前橋協立病院

指導にあたる医師名	瀧口由希	有する資格（日本プライマリ・ケア学会認定医）	専従する部署（内科）
■研修期間（3～6）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している ■ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性：当該病院（総合診療専門研修Ⅰ）の研修期間中に市や村や社会福祉協議会、その他の関連機関と連携し、フレイル予防のための住民リーダーの養成や、健康教室の実施を行う。） 			
指導体制			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる ■ 研修修了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる 			

※研修施設が2箇所以上にあたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域・分野： 保健・介護・福祉			
研修施設名	前橋協立診療所		
指導にあたる医師名	高柳 亮	有する資格（日本プライマリ・ケア学会認定医・指導医）	専従する部署（内科）
■研修期間（3～6）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している ■ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性：当該病院（総合診療専門研修Ⅰ）の研修期間中に市や村や社会福祉協議会、その他の関連機関と連携し、フレイル予防のための住民リーダーの養成や、健康教室の実施を行う。） 			
指導体制			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる ■ 研修修了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる 			

※研修施設が2箇所以上にあたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域・分野： 保健・介護・福祉			
研修施設名	通町診療所		
指導にあたる医師名	平 洋	有する資格（プライマリケア学会認定家庭医療専門医）	専従する部署（内科）
■研修期間（3～6）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している ■ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性：当該病院（総合診療専門研修Ⅰ）の研修期間中に市や村や社会福祉協議会、その他の関連機関と連携し、フレイル予防のための住民リーダーの養成や、健康教室の実施を行う。） 			
指導体制			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる ■ 研修修了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる 			

※研修施設が2箇所以上にあたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域・分野： 保健・介護・福祉			
研修施設名	北毛保険生活協同組合 北毛病院		

指導にあたる医師名	吉野和博	有する資格（日本プライマリ・ケア学会認定指導医）	専従する部署（一般内科）
■研修期間（3～6）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している ■ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性：当該病院（総合診療専門研修Ⅰ）の研修期間中に市や村や社会福祉協議会、その他の関連機関と連携し、フレイル予防のための住民リーダーの養成や、健康教室の実施を行う。） 			
指導体制			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる ■ 研修修了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる 			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域・分野： 保健・介護・福祉			
研修施設名	高崎中央病院		
指導にあたる医師名	石井 大輔	有する資格（日本プライマリ・ケア学会認定医）	専従する部署（一般内科）
■研修期間（3～6）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している ■ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性：当該病院（総合診療専門研修Ⅰ）の研修期間中に市や村や社会福祉協議会、その他の関連機関と連携し、フレイル予防のための住民リーダーの養成や、健康教室の実施を行う。） 			
指導体制			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる ■ 研修修了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる 			

領域・分野： 保健・介護・福祉			
研修施設名	プラーナクリニック		
指導にあたる医師名	青木康弘	有する資格（日本プライマリ・ケア学会認定医）	専従する部署（内科）
■研修期間（3～6）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している ■ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性：当該病院（総合診療専門研修Ⅰ）の研修期間中に市や村や社会福祉協議会、その他の関連機関と連携し、フレイル予防のための住民リーダーの養成や、健康教室の実施を行う。） 			
指導体制			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる ■ 研修修了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる 			